

シアトル別院時報

45巻8月号

2026 年度 BCA 教化標語

すべての つなかりに 気づく



今月のご法話

ヒロシマ、ナガサキ
原爆80年

輪番 楠 活也



昨年は、広島、長崎に原爆が投下されて80年の年でした。シアトル広島クラブと協力し、シアトルにご縁のある被爆者の方々の体験記をご紹介します。この機会に、約80年前に起こった悲劇を学び、みなさんと平和について考えさせていただきたいと思います。インタビューのビデオは、シアトル広島クラブのYouTubeでご覧いただけます。

ヒロシマ原爆体験記—藤田まさのりジーン（当時17歳）

<https://youtu.be/EwS0B9KJdxI?si=eieXgzHOy-OMPK4k> ジーン

さんは、1940年に両親と一緒に日本へ帰国していました。

1945年8月6日、その日はとても暑い日でした。私たちは重い米袋を馬車に積み込み、広島港まで運ぶ作業をしていました。16、17歳の少年だった私たちは仕事をする気になれず、防空壕に入って弁当を食べることにしました。その時、B-29が1機飛んでくるのが見えました。当時は珍しいことではありませんでした。私は爆心地から約2マイル（約3.2km）の場所にいました。比較的安全な場所だったのです。突然、まばゆい閃光が走りました。近くに変圧器があったので、「変圧器が爆発したのだろう」と思いました。誰かが防空壕の外へ様子を見に行き、戻ってきてこう叫びました。

「おーい、ジーンさん、みんな死んどるぞ。」

実際には亡くなっていたわけではありませんでしたが、人々は全身にひどいやけどを負い、呆然と立ち尽くしていました。

私たちは川岸へ向かいました。広島は三角州の上に築かれた平らな町でした。原爆で建物はほとんどすべて倒壊し、市内全体を見渡すことができました。あちこちからうめき声が聞こえました。皮膚が垂れ下がったまま歩いている人々の姿を目にし、私はその場から離れることにしました。

母は私の職場近くを走る路面電車に乗っていました。爆心地から約1.5マイル（約2.4km）離れ、爆風とは反対側にい

8月のカレンダー

日曜法要ユーチューブ同時配信あります

- | | |
|-----------|-----------------------|
| 2日（日）10時 | 原爆犠牲者追悼法要
異宗教間での法要 |
| 6日（木）1時半 | 日系マナー法要 |
| 9日（日）10時 | 日曜法要 |
| 10時50分 | 日本語法要 |
| 16日（日）10時 | 日曜法要 |
| 10時50分 | 日本語法要 |
| 20日（木）1時半 | 日系マナー法要 |
| 23日（日）10時 | 日曜法要 |
| 10時50分 | 合同ダーマ・
エックス・チェンジ |
| 26日（水）11時 | メリル・ガーデン法要 |
| 29日（土）9時 | 3寺院ソフトボール・
トーナメント |
| 30日（日）10時 | 日曜法要 |
| 10時50分 | 日本語法要 |

月曜日 楠輪番 休み
水曜日 & 土曜日 事務所休み

たため、電車から投げ出されただけで、大きなけがはありませんでした。

父は、バイクを運転することができたので、配達の仕事をするよう、命じられていました。おそらく、日本軍のために働いていたと思います。父は、あるオフィスから別のオフィスへ書類を運んでいました。その本部オフィスは、原爆が投下されたまさにその中心にありました。そのあたりは、何も残っていませんでした。中心部は摂氏約2000度の高温でしたから、みんな焼け死んでしまいました。父の遺体も見つけることはできませんでした。骨がそこらへ落ちていましたが、どれが誰やらわかりませんでした。

当時、私たちは「アメリカが新しい爆弾を使ったのだろう」と思うだけでした。その後、政府が「新型の原子爆弾」であると発表しましたが、「原子」とは何なのか、私たちには理解できませんでした。政府は犠牲者の数も発表せず、「広島市は壊滅した」と伝えるだけでした。あの日もB-29が上空を旋回していました。いつものように偵察写真を撮っているだけだと思い、特に危険は感じませんでした。私たちが本当に逃げたのは、P-51戦闘機が低空まで下りてきて容赦なく機銃掃射をしてきた時でした。原爆投下の日、警報はありませんでした。当時、日本中の都市が毎晩のように空襲を受けていました。しかし、不思議なことに広島だけは、それまで爆撃されていなかったのです。

母と私は毎日父を探しに広島へ通いました。しかし、父は見つかりませんでした。広島市内の光景は恐ろしいものでした。川には無数の遺体が浮かんでいました。半分焼け焦げた人々の中には、まだ動いている人もいました。それはまるで、ゆでられているウインナーのようでした。潮が満潮になると、それらは上流へ流され、干潮になると下流へ流されて行きます。その光景は原爆投下後約1週間続きました。多くはすでに亡くなっていましたが、誰もその遺体やけが人を川から引き上げることができませんでした。遺体は膨れ上がり、誰なのか判別することはできませんでした。

私たちの家は郊外の農村にあり、祖父母は無事でした。そこでは原爆の直接的な被害はありませんでした。元の生活に戻るまでには長い時間がかかりました。当時は「亡くなった人が夜になると墓から出てくる」と考える人もいました。日本人は、死者に対して、独特の感性を持っています。夜になると、小さな火の玉のようなものがあちこちに見えました。遺体から発生した可燃性ガスに火がついたものだったのでしょうか。広島中でその光景を目にし、とても不気味でした。

原爆投下後、食料は極端に不足しました。しかし、私たちは農業を営み、母が美容院を経営していたため、お金もあり、家族が生活するのに必要な食べ物を確保することができました。当時はパーマをかけることが流行していました。特に女性には人気で、母の美容院は繁盛していました。

私が若い世代に伝えたいことは一つです。

「核兵器には決して近づかないでください。」

私は核兵器が好きではないし、人々が核爆弾の使用を軽々しく扱っているのを聞くと、恐ろしくなり、思わず体が震えてしまいます。私は「最も小さな」原子爆弾を体験しただけです。それでも二度と経験したくありませんし、誰にも同じ思いをしてほしくありません。当時、赤ん坊を背負った母親がいました。あまりの熱で赤ん坊は焼け、母親の背中に張り付いていました。そのような親子が何百人も歩いていました。私は何とか乗り越えましたが、長い間悪夢に苦しみました。そして今でも交通事故を見ると、とっさに目を背けてしまいます。あの日の記憶が、一瞬でよみがえるからです。

日本語のメール・アドレス。 seattlebetsuin.nihongo@gmail.com

- シアトル別院の修復工事が終わりに近づいております。お葬式などのご相談は事務所までご連絡ください。また事務所に ご用の方は電話かメールで予約をおとりください。
- 祥月法要のお名前とご寄付のお名前が毎月英語面に掲載されます。 <https://seattlebetsuin.org/newsletter>

9月のカレンダー

6日 BCA 創立記念日法要
13日 ダーマスクール初日
20日 秋のお彼岸法要
26日 サーモン・ディナー
30日 維持会会費の締切日



会長の挨拶

タイラー森口 シアトル別院理事会長

お疲れ様でした！

素晴らしい盆踊りでした。ふたたび提灯が道にそって釣られマジカルでした。特別なサンキューをアランHと電気のクルーへ、彼らがイベントの直前まで明かりが灯るようしてくれました。このイベントのために働いてくださったサンガメンバーに感謝します。日本、ハワイ、ニューヨークなど遠くからヘルプをしに来られた方々もおられました。お盆コミティーのチェアーのロン浜川が言う通り一年で一番素晴らしい季節です。

お寺の再開が近づいてきます、盆踊りなどのイベントは私たちのお寺を一般に紹介する良い機会です、サンガを大きくする時でもあります。私は盆踊りに初めて来られた方と話すのが好きです、皆が集まる喜びを初めて経験され喜ばれるのを見るのが好きです。私の望みは仏法を引き続き分かち合い、お寺がこれからの125年繁栄をすることを保障することです。

踊りの指導者ハツネTに特別な感謝を、踊りの指導者をリタイアされました。そしてジュリーMの100歳のお誕生日をお祝いします。

南無阿弥陀仏、 タイラー

シアトル別院創立125周年記念

タイラー森口 シアトル別院理事会長

11月に催されるシアトル別院の創立125周年記念に向けて、ロナルドEマグデン博士の執筆されたシアトル仏教会の創立100周年（2001年）を記念した本「むかし、むかし」から抜粋しています。

ノート：今年初めに、ボランティアがウィステリアパークにある親鸞聖人の像と梵鐘を修復しワックスをかけました。自然保護活動家であるガブリエルBと、タラT、トシS、スティーブンK、クレグN、楠輪番、お寺のボランティアに感謝します。

“前任者の堀家毅より、お寺の会長ジェームス小村が釣鐘のプロジェクトを受け継ぎました。1979年の初期東京のイエハン沼田が1トン半の鐘を寄付しました、鐘は6フィートの高さ3フィートの幅でした。しかしプロジェクトは資金不足のため3年間放置されます。そして下紺みつま夫人が設置のために1万5千ドルを寄付されます。1982年9月26日、貴賓の沼田氏と下紺夫人、サンガ、西北部の開教使の前で、鐘の音が近辺に響き渡りました。

沼田氏は大変喜ばれてすぐに鐘の横に置く12フィートの高さの親鸞聖人の像を寄付されると約束されました。小村はその像を設立するための1万4千121ドルを募らなくてはなりません。1983年2月13日、像の設置後に小村氏は「この釣鐘と親鸞聖人の像はプラザをより美しくし、誰からも称賛されるでしょう」と感想を述べました。マグデンP. 269

ダーマスクール

イベット寺田、クレア村田

7月18日、19日の盆踊りはとても素敵な週末でした。ロン浜川と盆踊りコミティーに感謝します。そしてボランティアの皆様の重労働のおかげでマジカルなイベントとなりました。皆様に個人的には感謝できませんがとても感謝しています。

ダーマスクール（DS）はかき氷のブースを担当しました。DSの生徒たちが笑顔で一生懸命に手伝っているのに感動しました。エネルギーと献身は私たちのコミュニティの気持ちを反映しています。

夏の間も日曜法要は続いています。DSは9月13日にはじまります。

安全でリラックス、楽しい夏を過ごされますように。またすぐに会いましょう。

合掌、

別院維持会会費 ハワード、アイリーン、ステフ

別院維持会費はお寺の維持、運営の経費になります。

2026 年度の会費を納められた方がたに感謝します。

Carol Aoki-Kramer, Chase Habu-Chinn, Leonora Clarke, Beverly Glasser, Reiko Hara, Mary Hikida, Loraine Jacobs, Jeff & Tina Ko, Kimiko Kodagoda, Hiroko Janet Kosai, Fusako Kusumi, Alan Osaki & Phyllis Verzosa, Tom & Bev Sakamoto, Toshio Shahbaglian, Allison Shibata, Frances Shintaku, Garrett Suzaka, Midori Takagi, Stuart & Lisa Teramoto, Akiko Yabuki, Sadie Yamasaki, Yoko Yanari, Jim & Tomiko Zumoto

新入会員：歓迎します！

Allison Shibata, Alan Osaki & Phyllis Verzosa, Garrett Suzaka

ミュージック・ノート

ケミ中林

2026 年の盆踊りの音楽ハイライト：土曜日、雅楽演奏、小山先生（竜笛）「越天楽」先生は日本の宮廷音楽を浄土真宗では特別の機会に演奏すると雅楽の説明をされた。楠輪番は各楽器を紹介、去年シアトルに来られた深親師のようにモダンな音楽でも雅楽の楽器が使われると説明された。ジムで雅楽のディスプレイがありました。深親師の演奏が別院のユーチューブで見られます。

<https://www.youtube.com/watch?v=CA2IDc2C8hE&t=1975s>

またノースウェスト民謡会がライブ音楽で盆踊りを支援されました。祭り太鼓のパフォーマンスも大歓声でした。ツー・ストーリー・ゾーリが今年もビアガーデンで演奏。

シアトル別院ウクレレバンドのリハーサルは8月9日と23日9時15分からです。興味ある方はビギナーでも参加できます。9月の法要からまた演奏をはじめ新しい曲を練習します。Singing, Strumming, and Sharing はズームで8月10日です、詳細はアン・オックスライダーに聞いてください。ズームのリンクは事務所に聞いてください。



左：雅楽グループ
右：新しいやぐら

左下：祭り太鼓
右下：ノースウェスト民謡会



別院婦人会の活動基本方針（ミッション・ステートメント）

浄土真宗に基づく仏教徒としての認識を高め、会員の親交を促進すること：シアトル別院を支え、支援し、地域社会に貢献する：



2026年の盆踊りでの“ばあちゃんのクロゼット”は大成功でした。

婦人会メンバーがお盆のためにカンザシを作り、セールの値段付け、仕分け、ブースのセットアップをし、盆踊りの練習日と盆踊り当日に販売しました。ありがとうございました。



また、婦人会メンバーは盆踊りで販売したブルーベリー餅をつきました。





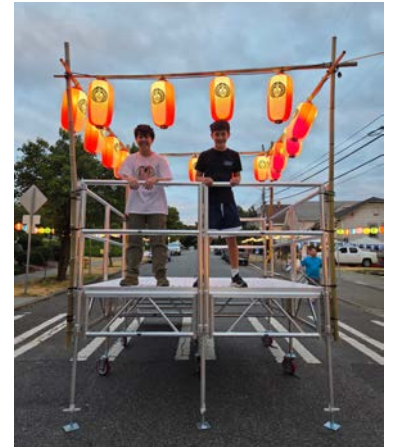
結婚式

7月25日、素晴らしい青空の下、輪番楠よりショーン・ウォングさんとオリビア・ブリストーさん結婚式が執り行なわれました。結婚式はクボタ・ガーデンで行われました。花嫁と彼女の家族は加州のサクラメント別院仏教会の長いメンバーです。お二人は2年間シアトル別院の盆踊りに参加されていました。来年も参加するのを楽しみにしておられます。

おめでとうございます、そして末永くお幸せに。

ツループ252

ツループ252は夏日和の日にミーティングを開きました。7月のハイライトは盆踊りでのボランティアです。セットアップを手伝い、皿洗い、ゴミ出し、照り焼きチキンのブースでした。手伝いは楽しかったです。盆踊りで一番良かったのは夜に提灯が道の両側に並ぶのをみた時です。スカウトメンバーは盆踊りの最中に他のボランティアの人たちと話ができてお寺を近く感じました。またこのボランティアでスカウトのアドバンスに必要な時間が取れてまた高校卒業の必要な時間も取れました。写真はアンセルKとテオKがヤグラのセットアップの手伝いをしました。



Live Event: From Despair to Awakening: Ajatasatru's Journey of Spiritual Transformation

With Dr. Mutsumi Wondra Sensei



King Ajatasatru's life was marked by guilt, suffering, and inner conflict. Through a profound encounter with Shakyamuni Buddha, he began a journey of deep reflection and spiritual transformation. Drawing from the Nirvana Sutra and Shinran's Kyogyoshinsho, this presentation explores why Shinran highlighted this story and how awakening to boundless compassion naturally leads us to live for the benefit of others.

Meet the Speaker: Resident Sensei at Orange County Buddhist Church. Born and raised in the Shin Buddhist tradition, educated in Kyoto, Japan. Was a trade and finance professional. Changed career midlife. Received a Ph.D. in Jodo Shinshu Buddhism, ordained at the Nishi Hongwanji in Kyoto, Japan and is a Research Fellow and Adjunct Professor at the Institute of Buddhist Studies (IBS).

📅 Thursday, August 6, 2026

🕒 2:00pm (Pacific)

🌐 EverydayBuddhist.org